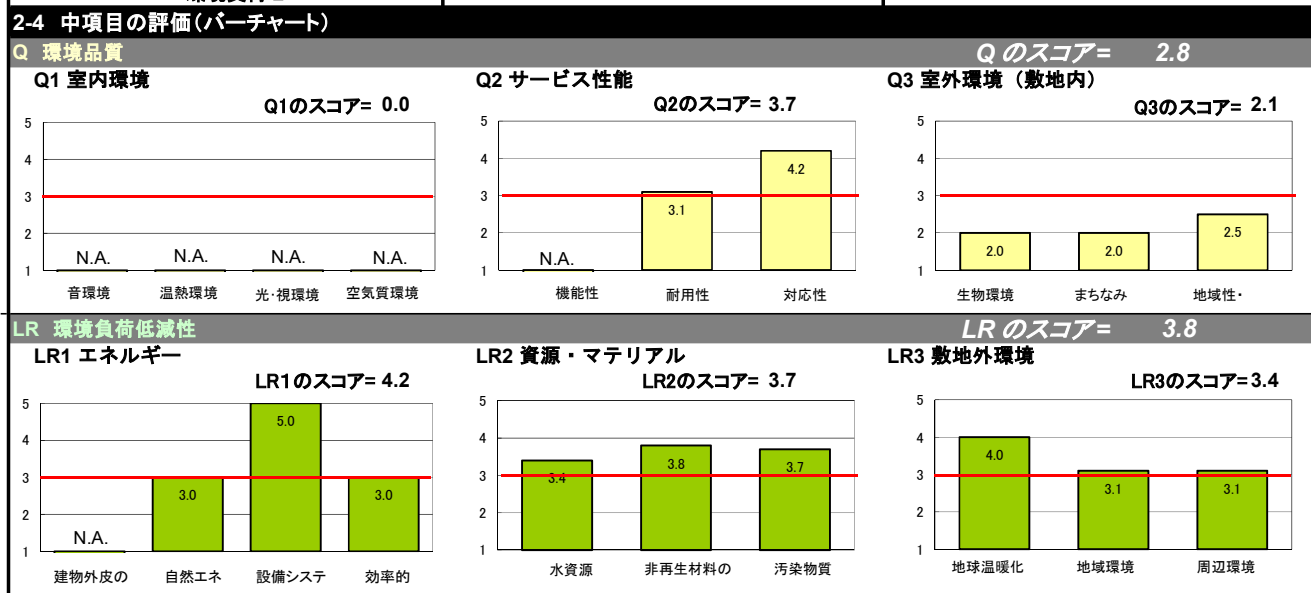
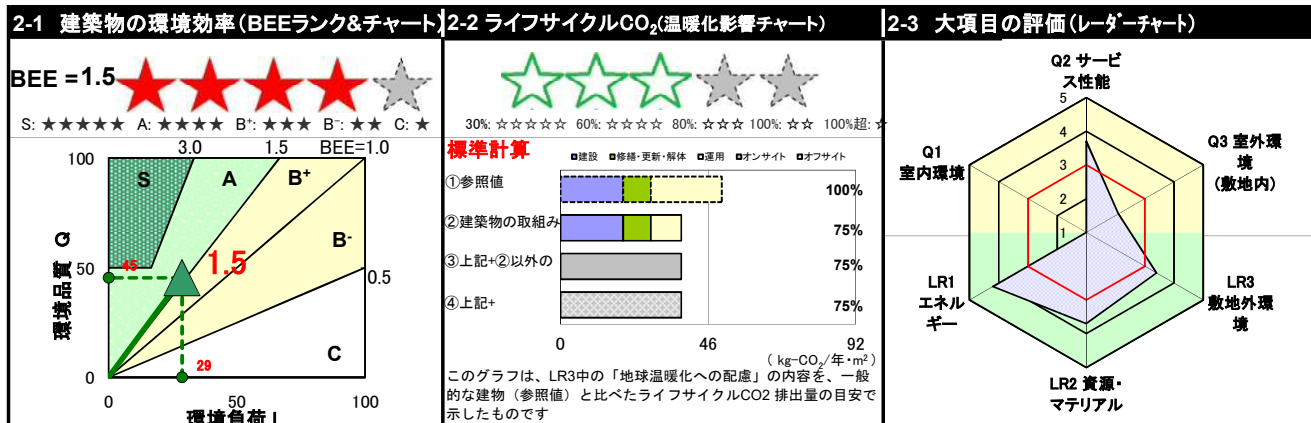


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	浜松倉庫株式会社 都田流通センター	階数	地上3F
建設地	静岡県浜松市中央区大原町440, 44	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	20 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,080 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年4月 予定	評価の実施日	2023年11月16日
敷地面積	21,912 m ²	作成者	安井孝浩
建築面積	5,185 m ²	確認日	
延床面積	14,229 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		
総合 これは、CASBEE静岡 2021年版 ver1.0による評価である。		その他 浜松倉庫株式会社は、倉庫・運送事業をベースに総合物流事業を行っています。また、今回、「グリーン経営」の取得を予定しています。
Q1 室内環境 ※本建築物には事務所部分がないため、対象外である。	Q2 サービス性能 階高平均4.26、2階の壁長さ比率は0.09で、物流・倉庫の空間にゆとりを持たせた。	Q3 室外環境 (敷地内) 外構緑化指数27%になるよう、敷地境界側に緑地・植栽を設けた。 また、道路境界より7.4mを植栽帯として建物外壁面を計画し果樹木を植え、
LR1 エネルギー BEIm=0.43と、省エネ基準を大きく上回るような電気設備設計をした。	LR2 資源・マテリアル 手洗い水栓は自動水栓を、便器は節水型便器を採用し、節水に努めた。 また、断熱材は、いずれもODP・GWPなしの材料を採用した。	LR3 敷地外環境 隣等間隔指数1.19で、風の回復がしやすい配置とした。 また、廃棄物処理抑制抑制について、 ・廃棄物排出量管理表を用いてゴミの量・種類を集計・フリースペースに分別スペース・分別容器回収ボックス設置予定

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

1. 建物概要

建物名称	浜松倉庫株式会社 都田流通センター 二期棟	BEE	1.5	BEEランク	A	★★★★
------	-----------------------	-----	-----	--------	---	------

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.9 /5		ふつつ 
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.0 /5		ふつつ 
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	4.0 /5		よい 
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.5 /5		がんばろう 
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	
		よい 4 点以上	
		ふつつ 3 点以上	
		がんばろう 3 点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。		内訳対応項目	
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進(Global Warming)		得点	3.9
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④給排水管に耐用年数40年の材料を使用。	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ⑤ 2.2.3 ⑥ 2.2.4 ⑦ 2.2.5 ⑧ 2.2.6 ⑨	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ⑤ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ⑥ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ⑦ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ⑧ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ⑨ 主要設備機器の更新必要間隔
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤外構緑化指数27%分の緑地を確保。 ⑥空地率51.9%で、風の通り道を確保。	Q-3 1 ⑤ 3 3.2 ⑥	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上
	■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑨BELm=0.43と、省エネ基準を大きく上回るよう設備設計をした。	LR-1 1 ⑦ 2 ⑧ 3 ⑨ 4 4.1 ⑩ 4.2 ⑪	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑪ 運用管理体制
	■資源・マテリアル対策 (⑫水資源保護/⑬非再生性資源の使用量削減/⑭汚染物質含有材料の使用回避) ⑪節水型便器および自動水栓を採用 ⑫内壁下地がLGS+PB若しくは外壁表しのため、分別しやすい ⑬躯体において、鉄骨部に電炉材を使用。 ⑭ガラスウール、ロックウール共にOWP・GWP=0	LR-2 1 1.1 ⑫ 1.2 1.2.1 ⑬ 1.2.2 ⑭ 2 2.1 ⑮ 2.2 ⑯ 2.3 ⑰ 2.4 ⑱ 2.5 ⑲ 2.6 ⑳ 3 3.1 ㉑ 3.2 3.2.1 ㉒ 3.2.2 ㉓ 3.2.3 ㉔	⑫ 節水 ⑬ 雨水利用システム導入の有無 ⑭ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑮ 材料使用量の削減 ⑯ 既存建築躯体等の継続使用 ⑰ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑱ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑲ 持続可能な森林から産出された木材 ⑳ 部材の再利用可能性向上への取組み ㉑ 有害物質を含まない材料の使用 ㉒ 消火剤 ㉓ 断熱材 ㉔ 冷媒
	■敷地外環境対策 (⑮地球温暖化への配慮/⑯温熱環境悪化の改善) ⑮ライフサイクルCO2が参照値の86% ⑯隣等間隔指数1.19で、風の回復しやすい配置である	LR-3 1 ⑮ 2 2.2 ⑯	⑮ 地球温暖化への配慮 ⑯ 温熱環境悪化の改善
“災害に強いしずおか”の形成(Disaster)		得点	3.0
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰便器は節水型器具を採用。 ⑰電気・通信設備は、浸水の危険性が内容に設備設計をした。	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑰ 2.4 2.4.1 ⑱ 2.4.2 ⑲ 2.4.3 ㉑ 2.4.4 ㉒ 2.4.5 ㉓	⑯ 耐震性 ⑰ 免震・制振性能 ⑱ 空調・換気設備 ⑲ 給排水・衛生設備 ㉑ 電気設備 ㉒ 機械・配管支持方法 ㉓ 通信・情報設備
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)		得点	4.0
	■サービス性能対策 (⑯機能性・使いやすさ/⑰心理性・快適性/⑱空間のゆとり) ⑱階高平均4.26、2階の壁長さ比率は0.09で、空間のゆとりを確保した。	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑯ 3 3.1 3.1.1 ⑰ 3.1.2 ⑱	⑯ ユニバーサルデザイン計画 ⑰ 階高のゆとり ⑱ 空間の形状・自由さ
	■室外環境(敷地内)対策 (②地域性・アメニティへの配慮) ②防犯カメラを設置し、防犯性に配慮。 ②道路境界より7.4mを植栽帯として建物外壁面を計画し果樹木を植え、中間領域の豊かさに配慮	Q-3 3 3.1 ②	② 地域性への配慮、快適性の向上
“緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)		得点	2.5
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤外構緑化指数27%分の緑地を確保。 ⑥空地率51.9%で、風の通り道を確保。	Q-3 1 ⑤ 2 ⑥ 3 3.2 ⑥	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ まちなみ景観への配慮 ⑥ 敷地内温熱環境の向上
	■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮隣等間隔指数1.19で、風の回復しやすい配置である	LR-2 2 2.5 ⑫ LR-3 2 2.2 ⑮	⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑮ 温熱環境悪化の改善